

平林金属協力パナグループ供給網

経産大臣賞に選出

廃家電樹脂を再資源化

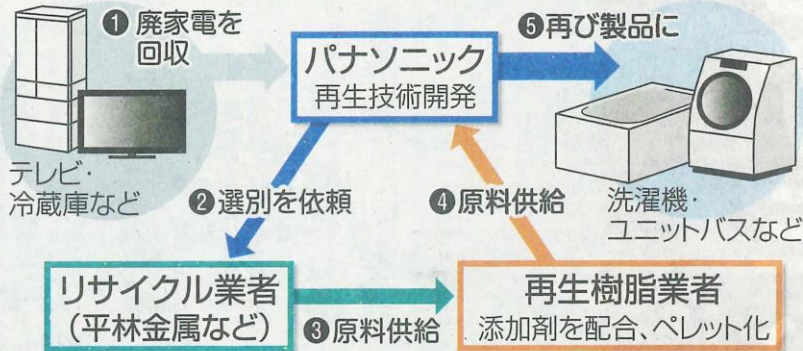
リサイクル業の平林金属（岡山市北区下中野）が協力したパナソニックグループの再生樹脂サプライチェーン（供給網）が、2021年度の「資源循環技術・システム表彰」で

最高位の経済産業大臣賞に選ばれた。廃家電の樹脂を高精度に選別し再資源化する仕組みが、温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」に貢献する取り組みとして評価された。

メーカーによる回収が義務付けられた家電4品目（テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコン）に含まれる樹脂を、パナソニックの洗濯機や食洗機、ユニットバスなどの原料に循環させる取り組み。家電を破碎して樹脂を取り出すリサイクル業者や、添加剤を配合して原料ペレットに加工する再生

樹脂業者など国内外約130社で構成する。平林金属は、近赤外線や色彩センサーを用いた選別機などを岡山市内の工場に導入した。比重などによる既存の選別技術と組み合わせ、破砕せずに含まれる樹脂をポリプロピレンやポリスチレンといった種類ごとに99%以上の純度で取り出す技術を確認。複合素材のため見分けにくい

再生樹脂サプライチェーンのイメージ



た。比重などによる既存の選別技術と組み合わせ、破砕せずに含まれる樹脂をポリプロピレンやポリスチレンといった種類ごとに99%以上の純度で取り出す技術を確認。複合素材のため見分けにくい

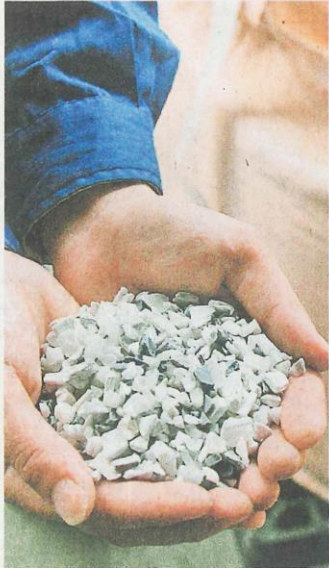
GFPF（ガラス繊維入りポリプロピレン）の選別も可能になった。

廃家電の破碎で出る樹脂は、金属やゴムなどとの選別が難しかったり、独特の臭いがあったりといった理由で大半が有効活用されていなかった。パナソニックは16年から関連業者に呼び掛けて選別や再生技術の高度化に着手。21年までに、16年比で2倍強の年間2・5万トンの樹脂を再資源化する供給網を構築している。

同表彰は一般社団法人・産業環境管理協会（東京）が毎年開催。表彰はパナソニックが受けた。「平林金属は最先端の選別技術で供給網の実現に貢献してくれた」（パナソニック）という。

平林金属は「大手メーカーの厳しい品質要求に応えることでレベルアップできた。より高度なリサイクル装置の開発などにつなげた」としている。

（伊東圭一）



平林金属が破碎、選別した廃家電の樹脂。パナソニック製品の原料として再利用される